

- 1 主題名 温かいやさしさ 2-(2)  
 2 資料名 「くまくんの たからもの」 (「みんなたのしく」東京書籍)  
 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、低学年内容項目2-(2)「幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。」ことをねらいとしている。これは、他の人に接するときの基本的姿勢に関わるものであり、相手に対する思いやりや親切な心をもち実践できる児童を育てようとするものである。

この指導内容は、中学年では、内容項目2-(2)「相手のことを思いやり、進んで親切にする。」へと発展する。中学年の段階では、相手の気持ちをより深く理解できるようになるため、温かい心とともに、相手に対する思いやりの心を育てることが一層重要になるとされている。さらに、高学年では、内容項目2-(2)「だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする。」へと発展する。高学年の段階では、特に相手の立場に立つことを強調することが必要であり、どのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考えた行動が求められることとされている。そして、中学校では内容項目2-(2)「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ」へと発展していくものである。

よりよい人間関係を築いていくためには、温かい心で相手に接することや親切にしようとする気持ちが大切である。思いやりや親切の気持ちは、相手との人間関係を深め、自分の人間性をより豊かにしていくものである。

低学年の児童は、社会性も徐々に育ち始め、思いやりの心の大切さも理解している。しかし、自己中心的な思いの強さから、自分の都合や損得が優先し、なかなか親切を実践できない場合も多い。そこで、思いやり、親切の大切さを本資料を通じて改めて感じ、友達や幼い子に対して温かい言葉かけや援助をしようという心情や態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、休み時間や昼休みには、友達に声をかけ、誘い合って外に出て、仲良く遊んでいる。帰りの会で行っている「今日のきらきらさん」の発表では、毎日たくさん児童が、友達のすてきな行きやありがとうの気持ちを発表できるようになってきている。係活動では、「ピカピカピカイチ係」がある。よい行いをした友達に週に一度手作りの賞状を渡している。また、「きらきらの木」を教室に掲示し、自分のいいところや「今日のきらきらさん」で発表したことを紙に書いている。紙が増えていくことに学級全体が喜びを感じている。その一方で、自分中心の考えが先にきてしまい、相手の気持ちを考えない言動をとってしまうこともまだまだ多い。だれとでも仲良く、だれに対しても優しくできる児童、学級を目指して日々声かけをしているところである。異学年との交流では、1年生が入ってきたことにより、お兄さん、お姉さんとしての意識も芽生えてきた。生活科の「1年生と遊ぼう」では、どのようにしたら1年生と楽しく、仲良く遊ぶことができるかをグループごとに話し合い、張り切って計画を立てることができた。そして本番では、1年生に対して優しく接する姿がたくさん見られた。また、本校では、かしの木グループ(縦割り班)がある。活動内容は、昼休みに一緒に遊んだり、清掃をしたり、遠足に行ったりする。それらの活動では、上級生たちにお世話になっている。しかし、上級生たちへの感謝や尊敬の気持ちを表せる児童は多くない。

本時では、人との関わりの中で欠かせない「思いやり」を育てていく観点から、相手の気持ちを考えた親切な行為が、自分も相手も温かい気持ちにさせるということに気付かせていく。話合いの場面では、ペープサートを動かしながら心の揺れを表現させたり、役割演技を取り入れたりとすることで、児童一人一人の思いを素直に表現させたい。しかし、本時の話合いの柱である集めた宝物を捨てるところで、葛藤せず「ねずみくんの方が大事」という意見で終わることなく、迷い揺れる人間の弱い部分も引き出せるよう発問等を工夫したい。また、終末では、普段自分たちが何気なく行っている親切に気付くことで、これからも思いやりのある行動を大切に、共によりよく生きていこうとする実践意欲をもたせたい。

(3) 資料について

主人公のくまくんは新しいかばんをもって宝物さがしに出かける。自分の集めた宝物でかばんがいっぱいになり喜んでいたら、穴に落ちたねずみの子を見つける。ぶどうのつるをたらし助けに行くが、ねずみの子を片手に抱えたままではうまくつるが登れない。そこで、一生懸命集めた宝物を捨て、ねずみの子をかばんに入れて助けることにする。やっとの思いで穴から抜け出ると、ねずみの子が、握りしめていた1つのどんぐりをくまくに渡す。くまくんはその温かいどんぐりを「とくべつなたからもの」だと感じる。

中心発問では、ねずみの子を助けたいと思いつつも、一生懸命集めた大切な宝物を捨てるかどうかで迷い揺れる場面の気持ちを考えさせる。ここは、ねずみくんを助けることの方が大事であるという思いや、やはり一生懸命集めた宝物は捨てたくないという思いなどで心が揺れ動く場面である。くまくんの2つの思いをペープサートを使ったり、切り返しの発問を工夫したりすることで、児童の多様な考えを引き出したい。

その前の発問では、くまくんの新しいかばんに入っているものがどんなに大切な宝物であるのかを考えさせることで、中心発問につなげていく。また、相手を思いやり親切にすることが、気持ちのよいことだと実感できるように、3つ目の発問では、ねずみくんも、一生懸命助けようとするくまくんのことを思い、たった1つのどんぐりを渡すという場面の気持ちを考えさせる。思いやりの心は親切にする行為によっては相手に伝わり、お互いの絆を結ぶ大切なものであることを気付かせたい。

4 他の教育活動等との関連

(4月) ○学級開き ○クラスの目標・約束づくり ○1年生を迎える会(児童集会) (5月) ○生活科「1年生とあそぼう」 ・1年生にやさしくし、仲良く遊ぶ。 ○かしの木グループづくり ・1年生にやさしくする。 (年間) ○帰りの会 「今日のきらきらさん」 ・友達のよい行いを認め合う。 ○きらきらの木 ・自分や友達のよいところを認め合う。 ○ピカピカピカイチ係 ・友達のよい行いを認め合う。	<b>道徳の時間</b>	(朝の会) ○わたしたちの道徳P66～P67を活用する。 (6月) ○きらきらの木 ・本時の終末で渡したカードを掲示し、友だち同士思いやりのある行動を広げる。 (11月) ○ふれあい遠足 ・縦割り活動の中で、1年生にやさしく接し、それをきっかけに他の場面でも1年生に親切にできるようにする。 (年間) ○学級指導 ・学級の中や行事等で、思いやりのある行動を取り上げ、認め合いを広げていく。	
	(6月) 資料名「くまくんのたからもの」 幼い人や友達に温かい心で接し、思いやりの心をもって親切にしようとする心情を育てる。		(11月) 資料名「学きゅうえんのさつまいも」 身近な人々に温かい心で接し、だれにでも進んで親切にしようとする心情を育てる。
	(3月) 資料名「かっぱ わくわく」 だれに対しても温かい心で接し、相手のことを考えて進んで親切にしようとする態度を育てる。		

**家庭との連携**

学級通信等で道徳の授業内容や学級の児童の取組を知らせ、家庭でも、身近な人に親切にすること、思いやりについて話題にしてもらおう。わたしたちの道徳P67に家族からの言葉を書いてもらい意欲を高める。

- 5 本時のねらい  
幼い人や友達に温かい心で接し、思いやりの心をもって親切にしようとする心情を育てる。

6 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆ (児童) ◇ (教師) 評価【評価方法】	時間
導入	1 新しいかばんを見て、話し合う。 ・新しいかばんがあります。みんななら、何を入れたくなりますか。	・きれいな色の石 ・公園で拾ったどんぐり ・ビー玉 ・大切なもの ・たからもの	・実際に小さなかばんを用意し、資料につながる導入とする。 ・本時は、ねらいとなる価値への方向付けを行わず、資料への興味をもたせ、資料渡しにつなげる。	2
展開	2 資料「くまくんのたからもの」の条件・状況を知り、話を聞く。 ・くまくんの気持ちを考えながら聞きましょう。	登場人物 主人公…くまくん 相方…小さいねずみの子 条件・状況 くまくんは、新しいかばんをもって、宝物を探しに出かける。見つけた宝物でかばんはいっぱいになったとき、穴の中に落ちた小さいねずみの子を見つける。	・短冊や挿絵を用いて、条件、状況などを板書に整理する。 ・くまくんの状況や気持ちがわかるように、間の取り方に気をつけて判読する。	8
深める	3 「くまくん」の気持ちを中心に話し合う。 (1) 新しいかばんが宝物でいっぱいになったとき、くまくんはどんな気持ちだったでしょう。	・宝物でいっぱいになって嬉しいな。 ・がんばって集めてよかった。 ・大事にしよう。 ・ぼくの大事な宝物だ。	・新しいかばんに宝物をたくさん入れられた喜びに共感させる。 ・がんばって集めたどれも大切な宝物であることを押さえておくことで、それを捨てることに対する葛藤につなげる。	5

		<p>(2) かばんにねずみくんが入ればのぼれると気付いたとき、くまくんはどんなことを考えたでしょう。</p> <p>④「ええい。」と思いついてかばんを逆さまにふることができたのは、何ででしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうか、こうすれば助けられるぞ。いい方法が見つかった。 【でも…】</li> <li>・どうしよう。</li> <li>・せっかく見つけた宝物なのに。</li> <li>・捨てるのは、いやだな。</li> <li>・もう見つからないかもしれない。</li> <li>・ねずみくんを助けることが大事だ。</li> <li>・宝物はまた今度探せばいい。</li> <li>・ぼくは、お兄ちゃんだぞ。</li> <li>・ねずみくんの命の方がたからものだ。</li> <li>・ぼくじゃないと、助けられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文中の言葉をキーワードとして取り上げ、くまくんの気持ちの変容についてまとめていく。</li> <li>・表情の異なるペープサートを用いることで、宝物を捨てるまで決心するまでの揺れ動くくまくんの葛藤を引き出す。</li> <li>・宝物と引き換えにしても、ねずみくんを助けると強く決意したときのくまくんの優しさに気付かせる。</li> <li>☆主人公の葛藤に共感しながら、相手のことを一番に考えることの素晴らしさに気付けたか。【発言・観察】</li> <li>◇ペープサートを用いたり、発問や板書を工夫したりすることで、児童の考えを深めることができたか。</li> </ul>	10
		<p>(3) ねずみの子からたった1つのどんぐりを渡されたとき、くまくんはどんな気持ちになったでしょう。</p> <p>④ どうして「とくべつなたからもの」なのでしょう。</p>	<p>&lt;ねずみの子&gt; 「おにいちゃん、ありがとう。はい、これ。1こだけになっちゃったけど…」</p> <p>&lt;くまくん&gt; ・ぼくのために、にぎりしめてきたんだね。このどんぐり大切にすよ。 ・いいんだよ。ねずみくんが無事で本当によかった。 ・ぼくも、きみが助かってうれしいよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねずみくんの思いがこもったどんぐりだから。</li> <li>・ねずみくんの心が入っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割演技を行うことで、相手を思っていたことは、相手にも伝わり優しい気持ちにさせることや、そのことで自分自身も満たされた温かい気持ちになることを実感させる。</li> <li>・「ぼかぼか」という言葉を大切にし、ねずみの子の思いがこもった、たった1つのどんぐりだということを感じさせる。</li> <li>・ねずみの子の手の温もり＝命が感じられ、その命はくまくん本人が助けたことによるものであると感じさせる。</li> <li>・たった1つでも、これは最初に自分で集めたどんぐりとは違うものであり、「とくべつ」なものに変えたのは、くまくんとねずみの子の思いやりの心であることに気付かせたい。</li> </ul>	11
見つめる	4  自分の生活をふり返る。 ○みんなもくまくんのよう に親切にしたり、やさしく できたりしたことはありませ んか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達が泣いているとき、声をかけてあげた。</li> <li>・けがをした友達を保健室まで連れて行ってあげることができた。</li> <li>・一人で遊んでいる子に、やさしく声をかけてあげることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心きらきらカードに書くことで、自己を振り返らせる。</li> <li>・発言できない子も書く活動を通して、自分の考えを表現させる。</li> <li>☆これまでの自分を見つめ直し、幼い人や友達に思いやりをもって接していこうという意欲がもてたか。【カード・観察】</li> </ul>	7	
終末 あたためる	5  1年生からのビデオレターを見る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の気持ちを知ることにより、幼い人に温かい心で接し、思いやりの心をもって親切にしようとする意欲をもたせたい。</li> <li>◇児童の実践意欲につながる終末の工夫ができたか。</li> </ul>	2	

## 7 評価の観点

- ☆主人公の葛藤に共感しながら、相手のことを一番に考えることの素晴らしさに気付くことができたか。
- ☆これまでの自分を見つめ直し、幼い人や友達に思いやりの気持ちをもって接していこうという意欲がもてたか。
- ◇ペープサートを用いたり、発問や板書を工夫したりすることで、児童の考えを深めることができたか。
- ◇児童の実践意欲につながる終末の工夫ができたか。

## 8 板書計画

とくべつな たからもの

ええい!

でも...

あつ、そうだ。

挿絵

ねずみくんをたすけたい たすけるのはほくしさい ない こわがっているから早く 出してあげたい ねずみくんのいのちのほ うがたいせつなんだ

せつかく見つけたのに... あつめるのたいへんだったな すてたくないな やっと見つけたほくのたから ものなんだ

くまくんのたからもの

あたらしいかばんをもってお出 かけ。たからものをいっぱいあつ めたい。

たからものいっぱいうれしいな たまらないうれしくて

挿絵

はい、これ。一こぼすに おもいきって...

ほかほか 思いやり

9 資料分析表

場面	キーワード	主人公の心の動き	発問・話し合い		
新しいかばんいっぱい宝物を集めた場面	あたらしいかばん たからものでいっぱいにするんだ。 おもしろいはっぱ びかぴかのどんぐり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいかばんもうれしいし、宝物いっぱいでもっとうれしい。</li> <li>・やった！こんなに見つかったぞ。</li> <li>・がんばって探してよかったな。</li> <li>・ぼくだけの宝物だぞ。</li> <li>・大事にしようっと。</li> </ul>	○新しいかばんが宝物でいっぱいになったとき、くまくんはどんな気持ちだったでしょう。		
穴をおりて、ねずみを抱きしめている場面	<p>小さなねずみの子でした。 「まって。いま、ぼくがいくからね。」 泣きながら…とびついてきました。 「もうだいじょうぶだよ。」</p>	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="691 488 930 723"> <p>くまくん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大変だ！助けなくちゃ。</li> <li>・一人でこわかったんだね。</li> <li>・もう安心してね。</li> <li>・助けてあげるよ。</li> </ul> </td> <td data-bbox="938 488 1161 723"> <p>ねずみの子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くまのお兄ちゃん助けて！</li> <li>・こわかったよ。</li> <li>・お兄ちゃんが来てくれて安心。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p>くまくん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大変だ！助けなくちゃ。</li> <li>・一人でこわかったんだね。</li> <li>・もう安心してね。</li> <li>・助けてあげるよ。</li> </ul>	<p>ねずみの子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くまのお兄ちゃん助けて！</li> <li>・こわかったよ。</li> <li>・お兄ちゃんが来てくれて安心。</li> </ul>	
<p>くまくん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大変だ！助けなくちゃ。</li> <li>・一人でこわかったんだね。</li> <li>・もう安心してね。</li> <li>・助けてあげるよ。</li> </ul>	<p>ねずみの子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くまのお兄ちゃん助けて！</li> <li>・こわかったよ。</li> <li>・お兄ちゃんが来てくれて安心。</li> </ul>				
ねずみの子をかばんに入れば両手で登れると気付く宝物を捨てる場面	「あっ、そうだ。…」 でも、かばんの中には一生懸命集めた宝物がいっぱい入っているのです。	<p><b>助きたい でも 捨てたくない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せっかく見つけた宝物だ。</li> <li>・こんないいもの、もう見つからないかもしれない。</li> <li>・大事にしようと思ったのに。</li> <li>・集めるのが大変だった。</li> <li>・捨てるなんてもったいない。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>ええい！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今はねずみくんを助けることが一番大事なんだ。</li> <li>・早くこわがっているねずみくんを安心させてあげたい。</li> <li>・宝物は、また探せばいいんだ。</li> </ul>	<p>◎かばんにねずみくんが入ればのぼれると気付いたとき、くまくんはどんなことを考えたでしょう。</p> <p>・「ええい。」とおもいきってかばんを逆さまにふることができたのは、何ででしょうか。</p>		
「ええい！」 思い切ってかばんをさかさまにふりました。 「よし、これならだいじょうぶ。」	ねずみの子が、そうっと何かをにぎりました。	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="691 1373 986 1854"> <p>くまくん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こわかっただろうに、いつの間に持ってきたの？ありがとう。うれしいよ。</li> <li>・ねずみくんの気持ちが、こもっているな。</li> <li>・助けてよかった。</li> <li>・ぼくの気持ちが、伝わったのかな。</li> <li>・ぼくが助けた、ねずみくんの手の温もりだ。</li> <li>・大切にしよう。</li> </ul> </td> <td data-bbox="994 1373 1161 1742"> <p>ねずみの子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お兄ちゃんはお兄ちゃんのために大事な宝物を捨ててくれた。助けてくれたお礼に、1つだけでも渡したい。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p>くまくん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こわかっただろうに、いつの間に持ってきたの？ありがとう。うれしいよ。</li> <li>・ねずみくんの気持ちが、こもっているな。</li> <li>・助けてよかった。</li> <li>・ぼくの気持ちが、伝わったのかな。</li> <li>・ぼくが助けた、ねずみくんの手の温もりだ。</li> <li>・大切にしよう。</li> </ul>	<p>ねずみの子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お兄ちゃんはお兄ちゃんのために大事な宝物を捨ててくれた。助けてくれたお礼に、1つだけでも渡したい。</li> </ul>	○ねずみの子からたった1つのどんぐりを渡されたとき、くまくんはどんな気持ちになったでしょう。
<p>くまくん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こわかっただろうに、いつの間に持ってきたの？ありがとう。うれしいよ。</li> <li>・ねずみくんの気持ちが、こもっているな。</li> <li>・助けてよかった。</li> <li>・ぼくの気持ちが、伝わったのかな。</li> <li>・ぼくが助けた、ねずみくんの手の温もりだ。</li> <li>・大切にしよう。</li> </ul>	<p>ねずみの子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お兄ちゃんはお兄ちゃんのために大事な宝物を捨ててくれた。助けてくれたお礼に、1つだけでも渡したい。</li> </ul>				
ねずみの子から、どんぐりをもらう場面	びかぴかのどんぐりが1つ ねずみの子の手でぽかぽかしていました。 まだあたたかいどんぐりをかばんの中にしまいました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくがねずみくんのことを助けてあげられた記念のどんぐりだ。</li> <li>・どこをさがしても見つからない、ねずみくんの心のこもったたった1つのたからものだ。</li> <li>・これを見るたびに今日のこととねずみくんのことを思い出すよ。</li> <li>・ねずみくんが助かって本当によかった。</li> </ul>	・どうして「とくべつなたからもの」なのでしょう。		
<p>1つでも これは <b>とくべつなたからもの</b> なんだ</p>					